

令和2年度刀根山支援学校第3回学校運営協議会 会議議事録

日時：令和3年2月16日（火）15：00～16：30

場所：本校 多目的ホール

出席者（敬称略）

委員 井村 修（奈良大学社会学部 教授）

山田 亨（学校法人大阪滋慶学園 教育顧問）

高畠 俊英（豊中市教育委員会児童生徒課 主幹）

中里 ましほ（大阪府立刀根山支援学校 保護者代表）

事務局員 門田 浩一（校長） 朝重 浩一（教頭） 高原 浩徳（教頭） 松葉 典明（事務長） 三澤 誠一（首席） 宮下 太志（精神分教室） 小山 輝雄（指導教諭）
宮本 恵（本校教育部部長） 天藤 明子（訪問教育部長） 中林 啓（阪大分教室） 植田 千文（滝井分教室長） 安里 洋平（枚方分教室長）

欠席者

委員 平賀 健太郎（大阪教育大学教育学部 准教授）

齋藤 利雄（独立行政法人大阪府刀根山医療センター 小児神経内科部長）

1 学校長挨拶

協議と承認をよろしくお願いいたします。

2 協議事項

（1）令和2年度学校経営計画の評価（案）について

校長：別紙資料を説明。学校教育自己診断について、「学校は楽しい」は肯定的意見が上昇。「授業」は保護者が肯定的意見上昇している。この結果を来年度の計画に入れる。いじめ対応については、コロナ渦でいじめ件数は増えたが、教員との信頼関係が構築されて対応が迅速にできていると思われる。学校運営については、「家庭、病棟との連携」が上昇。本年度の取り組みは、研究会、地域連携など、予定通り実施できず、目標が達成されなかった。

【委員からのご意見・ご質問】

委員：評価の○、△表記は必要か。今年度は、実施しようとしていたが、感染症流行のためできなかったもので、評価できないのではないか。

校長：教育長には確認済み。教育長からの指示で評価が難しい時は△表記という指示。

委員：1、学校評価と学校教育自己診断結果と％に違いがあるがどちらが正しいのか。50％表記は必要か。昨年度の表記は必要ないのではないか。専門性の向上（先進校訪問）の評価△は必要か。評価しないで、WEB訪問を検討しているなどの文章表記にしてはどうか。

校長：【学校運営】肯定率 92%に訂正。50%表記は削除します。ご意見は来年度の計画に盛り込みます。

委員：いじめ対応とは。具体的に委員会はどのような運営をしたのか。

教頭：いじめ防止委員会を月 1 回開催。事案が発生した時にはすぐに報告があった。

精神分教室 8 件、滝井分教室 2 件あり、それぞれの対応を説明。

委員：コロナの影響を考えずに評価をしても良いのではないか。リーディングスタッフが派遣要請に応えていたのであれば、○でもよいと思う。

校長：目標が 15 回であり、8 回の派遣であったので、△としています。

委員：特殊な事情の中でしたが、評価については承認でよいですか。

承認されました。

(2) 令和 3 年度学校経営計画（案）について

校長：別紙資料を説明。教育長より指示があり、見やすく改行し、ページ数も増えている。3 年度新たに加えた項目は網掛けしている。

1、授業力向上のため、教科会を WEB 開催も含めて実施する。特に ICT 機器環境の整備に重点をおく。地域校連携についてもリモート、WEB の活用を進める。今年度の精神分教室のノウハウを継承していきたい。

2、先進校訪問もリモート訪問を含め 2 校は実施したい。

3、いじめ防止委員会は継続していきたい。

【委員からのご意見・ご質問】

委員：3 安全安心の評価%の設定が高いのでは。「個別の支援計画」「人権教育」～以上を目指すという表現より、平均値を維持するなどの表現に変えてはどうか。4 年間の%の原因を探って欲しい。

校長：ご意見を踏まえて表現を修正します。

委員：教員の評価は吟味が必要。数値の変動は生徒数や在籍している期間にもよるので、一概に評価するのは難しいのではないか。先が見えない中、計画を立てるのは難しいでしょうが、WEB などを取り入れて実現可能で、効果的な教育に繋がる計画ではないかと考えます。計画は承認でよいですか。

承認されました。

校長：ご指摘を修正して計画とします。ありがとうございました。

3 報告・連絡

(1) 各部署の活動報告

① 本校教育部

在籍は資料の通り。新型コロナ感染対策で教育サミットの中止や修学旅行が日帰りでの実施、体育祭、交流会等の日程変更がありましたが、行事は概ね例年通り実施。来賓なしで中学部 1 名、高等部 2 名の卒業式を実施の予定。

今年度は、感染対策で制約があり、授業や交流などオンラインでの取り組みが

多くなったが、生徒は中でもできることを見つけ頑張っていた。ロボットプログラミング選手権近畿東海北陸ブロック優勝、全国大会ベスト8進出は、本校で明るい話題になり、2月10日の関西大学生のオンライン授業は、留学中の大学生との交流もあり、実りの多い経験ができました。

② 訪問教育部

コロナの連携、連絡がより一層必要であった。訪問先の病院に合わせた対応が病院ごとに違うため、苦慮しました。WEBでの始めの会の取り組みや、iPodを用いての授業はよい成果があった。WEBキャリア教育やクイズ大会なども参加できた。卒業を祝う会を実施予定。

③ 精神分教室

在籍は2、3学期増加。行事は2学期から実施できている。3月12日卒業式。「コグトレ」「自立活動」などは例年通り実施できた。「わにタイム」一時は中止していたが、再開して実施できている。病棟との研修会や連絡会は実施できている。児童生徒数が増えているため、他分教室から応援をしてもらっている。

④ 阪大分教室

在籍は10名程度で推移している。行事は例年使っているデイルームが使用不可のため、実施できていない。運動会の代わりに体育の授業などで種目を体験している。面会制限があり、子供たちのストレスが増えているため、教員がその対応をしている。

⑤ 滝井分教室

在籍数は記載の通り。病院はコロナ影響が大きい、在籍はほぼ例年通りである。行事はもともと少ないが、外部との関りを求め、人材バンクを活用して、アロマの講習や「ようこそ先輩」などの取り組みをおこなった。毎年実施している「滝井セミナー」は今年度初めて、動画配信形式で実施した。参加者は全国からであった。来年度の開催形式については今後検討していく。

⑥ 枚方分教室

在籍は例年の半分くらい。コロナの影響やDrの移動などいろいろな要因が重なったと考えられるが、年が明けてからは増えつつある。病棟とのかかわりが顕著に感じられた1年となった。

【委員からのご意見・ご質問】

委員：滝井セミナーのお知らせはどのようにしたのか。どのような職種の申し込み者だったか。保護者の申し込みはあったか。

教諭：学校HPへの掲載と管理職から案内発送（大阪府下の小中学校）他府県の参加者はネット検索をしたと思われる。対象はもともと保護者はなく、申し込みは教育関係者、他府県の支援学校教員、特総研の職員であった。

委員：ニーズは高いと考えられるので、より一層の広報活動をしたほうがいい。

(2) 授業アンケート結果について

教頭：別紙資料の説明。1, 2の項目は本校、精神、滝井で下がっている。5の項目は精神で上がっている。今年度は、コロナの影響や分教室に在籍している児童生徒の特性によるものと考え。回収率が下がっていることも結果に反映していると考え。

(3) 学校教育自己診断結果について

教頭：BHはボバース記念病院のこと。別紙資料の説明。

校長：結果分析していくと、児童生徒のアンケートの項目4が下がり、5が上がっているのは、トラブルが多く発生していたことが要因であると考え。児童生徒の〈コメント〉にあるタブレット端末配布については、府教委は6月から順次と説明しているが支援学校は遅れる見込み。それは、在籍数が定まらないことも原因である。保護者の5、7、15、16の項目が上がっているのは、保護者交流や行事の実施が難しい中、ICT機器の活用やHPや校長ブログなどで学校の様子を配信している結果と受け止めている。病院関係はほぼ例年通り。2の項目が上がっているのは、こどもの抱えるストレス対応についてのことと考える。9の項目は例年より高い評価をいただいた。教員の結果は上昇したもの下降したものあったが、総合的にいじめに対する対応が教員間で進んだと考えられる結果となった。

4 その他

(1) リーディングスタッフより

教諭：今年度はコロナ感染症の影響で、要請を受けて訪問することができず、日程調整に苦慮したが、支援学校、小学校への巡回相談を実施した。訪問ができない学校とはメールや電話で対応をした。小学校5、6年の相談が多く、車いすを使う時期になるお子さんの支援に苦慮されている様子がうかがえた。

(2) いじめについて

教頭：人権教育推進委員会、いじめ対策会議を開催した。そのたびに分教室の情報交換がなされた。いじめ事案がない分教室やいじめの項目に回答がないのが多く肯定率は下がっているが、教員のいじめ対応に対する意識は上がっていると考え。

委員：いじめ対応に対する情報収集能力は確実に上がっているようです。教員の意識が変わっていることはいいことです。

(3) 校長より

ご意見、ご提案ありがとうございました。計画に反映していきたいと考えます。「今だからできること」をしていこうの精神で新しい年度を進めていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。